

【全体概要】県内の多くを占める山間部は農業には不利であるが、標高の高い山間地の夏季冷涼な気候を生かした新たな品目導入の可能性がある。県外山間部において夏どりイチゴの産地が増えつつあり、本県において、四季成り性イチゴをもちいた近畿で希少な夏どりイチゴの産地化を目指す。

※四季成り性イチゴ：年中花芽分化が可能であり、夏場も収穫が可能な品種

新品種・新技術等の概要

「四季成り性イチゴの生産技術の導入」

○普及状況：県内では、四季成り性イチゴの栽培は行われていない。全国的にも四季成り性イチゴの栽培は夏季に冷涼な気候の北海道、東北地方及びその他地域の山間地に限られている。

○奈良県天川村（標高800m）で下記の主要品種を試作し、当地に適した品種を選定し、その産地化を目指す。

- ①夏の輝（九州・沖縄農業研究センター）
- ②デコルージュ（東北農業研究センター）
- ③信大BS8-9（信州大学）
- ④すずあかね（ホクサン株式会社）
- ⑤ペチカ（株）ホーブ
- ⑥サマールビー（有）ミカモフレック



定植（4月）



収穫開始（6月～）

主な取組内容

【品種の特性把握】

- ・実証展示圃の設置
- ・四季成り性イチゴ6品種の栽培適性評価

【産地・実需者の意向・ニーズ等の調査】

- ・実需者を対象に販売を希望する品種や果実品質、果実重量、出荷方法等について意向調査
- ・県外主要産地の導入品種等の事例調査

【検討会の開催】

- ・県研究機関等による安定生産の検討
- ・生産者と実需者を交えた試食会の実施

【栽培マニュアルの作成】

- ・試験栽培を踏まえ特性をとりまとめたマニュアル作成

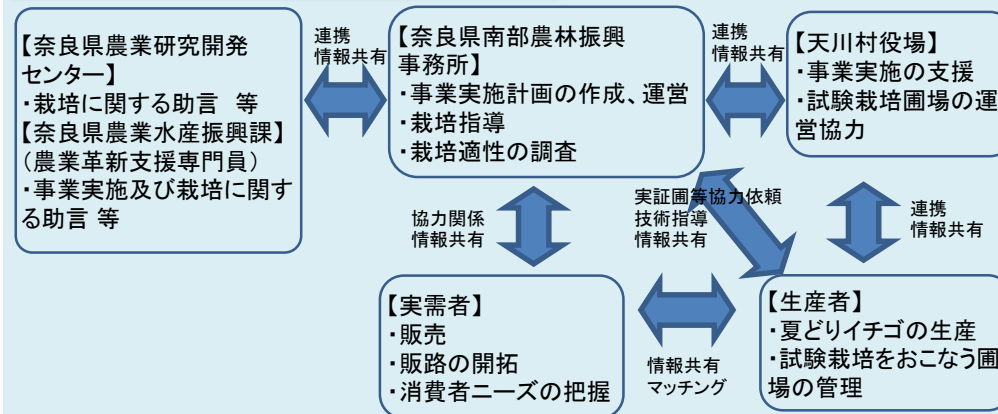


実需者との意見交換会



村主催による試食会

実施体制図



課題と今後の対応

- 品種試験の結果、品質良好で収量も安定した「サマールビー」と品質に優れる「信大BS8-9」の2品種を選定した。次年度は確認の試験を行う。また、「信大BS8-9」は品質が良いが収量が少ないため、収量向上を図るための定植後の管理方法を検討する。
- 収量向上には収穫期間を延長する必要があるため、内張りカーテンや簡易暖房を取り入れる必要。
- 販売先を複数確保する必要。
- 面積を拡大し試験栽培に取り組む予定。その結果に基づき栽培マニュアルの作成を行う。また、先進地視察などで得られた情報を元に栽培設備に関して助言を行う。
- 温室内環境遠隔モニタリングシステムを導入し、ハウス内の管理の省力化及びハウス内環境の情報収集を行う。



次年度の栽培に向けての検討会議